

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第9号

1999年 3 月 23日発行



特集：沖縄関係映像資料

係料 関資 縄像 沖映

映画はな盛り

昨年は県内各地で「カメジロー」「豚の報い」「夢幻琉球・つるヘンリー」「教えられなかった戦争・沖縄編-阿波根昌鴻・伊江島のたたかい-」「BEAT」「カマドの恋人」等の沖縄をテーマにした映画のロケが相次ぎました。

埋もれつつある映画

戦前、我が国で製作された沖縄関係劇映画は昭和六年に製作された「執念の毒蛇」の他七件余であり、戦後は約七〇件も製作されています。しかし、現在市販されている映画目録（ぴあ・シネマクラブ邦画編）では一九五三年の今井正監督のひめゆりの塔を始めに二二件の沖縄関係劇映画のタイトルしか確認できなく大半のものが埋もれて忘れられつつあります。これらを発掘して永久に保存して活用することが課題です。

これらは復帰前の沖縄の世相を反映した映画や復帰後、沖縄の島嶼性や歴史にはぐくまれた地域性豊かな沖縄の個性を描いた映画です。



糸満の大通り（河村只雄撮影8mm）

また、記録映画は沖縄の伝統文化等の記録化を図った昭和四年の「体育行脚・沖縄の巻・八重山群島の巻」、昭和十三年に日本民藝協会（柳宗悦）が製作した「琉球の風物」「琉球の民藝」、南方文化の探究の河村只雄が撮影した8ミリフィルム、船腰義珍の空手演舞等があります。

米国の膨大な記録映画

沖縄戦では米軍は詳細に戦況や制圧した地域の状況を写真や映画で記録を残しました。戦後は沖縄を統治した米軍や米国民政府は膨大な数の沖縄に関する記録映画を製作し、統治の情報教育活動に活用しました。

復帰前、沖縄にあったその映画は復帰時に大半が散逸しましたが、米国ワシントンの国立公文書館には約二千三百巻の映画が収蔵されています。

おすすめの映画

戦後に製作された映画で特筆すべきものでは、昭和三〇年の早稲田大学八重山調査団に同行した日経映画社が製作した「沖縄」、昭和三十九年九州大学学術調査団に同行した福岡RKB毎日放送が製作した「弧の果ての島・八重山群島」、ハワイ移民沖縄県人で移民

研究家の故比嘉太郎氏が製作した「ハワイに生きる」「琉球」昭和四三年復帰運動も最高潮の頃に製作され、沖縄の置かれていた状況を強烈に風刺し、沖縄からの行動団の一部の学生が東京晴海埠頭に到着した船上でバスボートを焼くショッキングなシーンが印象的な東陽一監督の「沖縄列島」等があります。

復帰前後の沖縄の米軍基地、復帰時点の自衛隊にカメラを向けたRKB毎日放送の報道特番、戦後沖縄の出来事を映画ニュースで記録した朝日ニュースも沖縄県の現代史を記録した貴重な映像資料です。

学習活動に活用してほしい映像

また、復帰後の架橋、ダム建設、港湾整備、県庁舎建設工事等も地域が記録され、ウリミバエ等根絶事業の記録、伝統工芸、芸能の記録映像資料も是非学習活動に活用してほしいものです。



ミニシアターで映像資料が見れます

公文書館収蔵映像資料

公文書館では沖縄関係映像資料を収集し、保存と活用に努めています。みなさんの身近に沖縄に関する映像フィルム等がありましたら、ご連絡下さい。収集した映像フィルムは、ビデオでご覧になれます。また公文書館が主催した講演・講座、史料保存に関する研修会などもビデオで見ることができます。

公文書館で閲覧できる主な映像資料

1 戦前に製作された沖縄関係記録映画

番号	制作年代	タイトル	制作者
1	1916	富名屋義珍空手演舞	粕谷眞敬
2	1929	体育行脚 沖縄の巻、八重山郡島の巻	朝輝記多留
3	1931	執念の毒蛇	吉野二郎
4	1938	沖縄本島及び周辺離島の風物	河村只雄
5	1938	沖縄の風物、沖縄の民芸	柳宗悦

2 戦後に製作された沖縄関係記録映画

6	1959	沖縄（早稲田大学八重山調査）	日経映画社
7	1959	石川市宮森小学校ジェット機墜落事故	喜納兼三郎
8	1964	孤の果ての島、八重山群島	RKB毎日放送
9		沖縄	毎日映画社
10	1968	沖縄列島	東陽一
11	1971	船出 沖縄編	日本テレビ
12	1972	沖縄の声	毎日映画社
13		沖縄の祭り	沖縄県
14	1994	平和の波永遠なれ	沖縄県
15	1996	人間の住んでいる島	人間の住んでいる島製作委員会

3 戦後に米国民政府等が製作した沖縄関係記録映画

16	1952	明日を導く人々	USCAR
17		起きあがる琉球	USCAR
18		琉球	USCAR
19	1960	沖縄	宮本ハロルド
20	1965	ハワイに生きる 上下巻	比嘉太郎
21	1972.5	海越えてこの感激をー沖縄県祖国復帰記念式典ー	南米グループ、南米銀行

4 マニアがつづる戦後の沖縄

22	1959	石川市宮森小学校ジェット機墜落事故	喜納兼三郎
23	1970	映画沖縄の心を求めて	石田権一
24	1978	映画南の島を汽車が行く	石田権一

5 朝日ニュース

25	1955	No.534 時の話題「米調査団沖縄へ」	日本映画新社
26	1956	No.569 祖国にすぎる沖縄	日本映画新社
27	1957	No.597 時の話題「那覇市長に潮長氏就任」	日本映画新社
28	1957	No.643 時の話題「潮長市長ついに追放」	日本映画新社
29	1958	No.649 時の話題「せまる那覇市長選挙」	日本映画新社
30	1965	No.1051 総理沖縄を訪問	日本映画新社
31	1969	No.1244 ある生活「あこがれの本土」	日本映画新社
32	1969.43	No.1245 荒れた沖縄デー	日本映画新社
33	1969	No.1275 沖縄	日本映画新社
34	1970	No.1328 今週の顔「沖縄議員の声」	日本映画新社
35	1971	No.1375 今週のアンクル「沖縄国会」	日本映画新社
36	1971	No.1379 「沖縄」強行採決	日本映画新社
37	1972	No.1405 沖縄帰る	日本映画新社
38	1972	No.1406 復帰後の沖縄	日本映画新社
39	1974	No.1519 沖縄-その望ましい未来	日本映画新社

6 沖縄の芸能

40	1958	月代物語	大日方傳
41	1958	山原街道	大日方傳
42	1997	沖縄の伝統芸能〜組踊へのいざない	文化庁、沖縄県教育委員会
43	1997	沖縄の伝統芸能〜その心と形をもとめて	文化庁、沖縄県教育委員会

7 沖縄の農業

44	1975	人間と海	沖縄県
45	1983	沖縄の糖業	沖縄県農林水産部
46	1984	虫を放して虫を滅ぼす	沖縄県農林水産部
47	1985	集まろう話し合おうむらづくり	沖縄県農林水産部
48	1986	さとうきび作りは土づくりから	沖縄県農林水産部
49	1986	ミカンコミバエ根絶の記録（完結編）	沖縄県農林水産部
50	1993	ウリミバエ根絶の記録（総集編）	沖縄県農林水産部
51	1993	オウシマダニ撲滅に挑む	沖縄県農林水産部

8 沖縄県建設工事の記録

52	1980	沖縄県の漁港	沖縄県農林水産部
53	1984	くがに橋（瀬底大橋建設の記録）	沖縄県北部土木事務所
54	1985	緑と海と太陽の広場 PART 1	沖縄県土木建築部
55	1987	於茂登トンネル	沖縄県八重山土木事務所
56	1987	建設進む中城湾港新港地区	沖縄県土木部中城湾建設事務所
57	1987	緑と海と太陽の広場 PART 2	沖縄県土木建築部
58	1987	宜野湾港マリナーの建設	沖縄県土木建築部宜野湾土木事務所
59	1988	夢の架橋（工事進む池間大橋）	沖縄県土木建築部宮古土木事務所
60	1990	県道屋嘉恩納線	沖縄県北部土木事務所
61	1990	建設進む中城湾港新港地区PART2	沖縄県土木部中城湾建設事務所
62	1990	小さなダムの大きな役割	沖縄県土木建築部南部土木事務所
63	1990	沖縄県庁舎行政棟建設工事の記録	沖縄県総務部県庁舎建設局
64	1991	海峽横断橋（池間大橋工事建設記録）	沖縄県土木建築部宮古土木事務所
65	1991	県道名護運天港線	沖縄県北部土木事務所
66	1992	おきなわの水道	沖縄県企業局
67	1993	水源の創造	沖縄県庁舎建設部建設総務課ダム事務所
68	1994	来間大橋（海峽にかける農道橋）	沖縄県農林水産部

9 沖縄県主催行事

69	1990.8	第1回世界のウチナーンチュ大会	世界のウチナーンチュ大会実行委員会
70	1993	育てよう地球の緑豊かな未来	沖縄県
71	1995	第2回世界のウチナーンチュ大会	第2回世界のウチナーンチュ大会実行委員会
72	1997.11	スボレクおきなわ97	RBC琉球放送
73	1997.8	沖縄空手古武道世界大会	沖縄空手・古武道世界大会実行委員会
74	1997	沖縄からのメッセージ 総集編	沖縄県

10 市町村制作ビデオ

75	1993	伊良部町制10周年記念事業	伊良部町
76	1994	沖縄ウエストコースト物語 恩納	恩納村
77	1994	南風はあたたか	下地町
78	1998	響む豊見城	豊見城村

USCAR (ユースカー) 資料の公開始まる

USCAR (琉球列島米国民政府) は、沖縄を統治するため、一九五〇年に米軍が設置した機関です。一九七二年の沖縄の復帰とともにUSCARも組織解消し、現在その文書は米国立公文書館で保管されています。USCARは実質的に琉球政府を監督していたので、その行政文書は、米軍統治下にあった沖縄の戦後を知るうえで重要なものであり、収集の必要性がこれまで多くの人々に指摘されてきました。



米国立公文書館 (アーカイブスⅡ)

そこで、県公文書館は、国立国会図書館と共同で、メリーランド州にある米国立公文書館に所蔵されているUSCAR資料の収集に乗り出しました。双方とも職員を現地に派遣し、しばらくの準備期間をおいて、一九九七年一月より、USCAR資料のデータベース化とマイクロ撮影を正式に始めました。計画どおりにいけば、二〇〇二



現地でのデータベース化作業 (アーカイブスⅡにて)

年に、三二〇万枚ある同文書の収集事業を完了する予定です。

この事業の最初の成果が、一九九八年一月に、沖縄と東京で、同時に公開されました。今回閲覧可能となった資料は、USCARの公益事業局や宮古及び八重山の民政官府、そしてUSCAR資料が米国へ送られた際の一連の記録などで、二〇数万ページ分に相当します。事業の進展にしたがって、残りの資料も随時公開していきます。くわしいことは、公文書館のUSCAR資料担当者にお尋ね下さい。

New accession 2 県政文書の受入

平成10年度沖縄県庁 知事部局文書を 受け入れました

沖縄県庁では文書の種類に応じて保存年限を定め、保存期間が満了した文書について廃棄決定を行うことになっています。

その廃棄文書のうち、将来歴史資料として重要になると思われるものは、公文書館に引き渡されます。今年度公文書館が受け入れた文書の箱数は次の表のとおりです。

公文書館ではそれらの文書をさらに

単位:箱

平成10年度 知事部局からの受入文書

	引渡文書:保存期間満了して廃棄された文書	移管文書:20年の最長保存期間をさらに延長した文書 (公文書館で保管)	計
総務部	42	0	42
企画開発部	62	0	62
文化環境部	34	10	44
福祉保健部	256	17	273
農林水産部	312	57	369
商工労働部	43	2	45
土木建築部	437	42	479
出納事務局	3	0	3
総 計	1189	128	1317

書架総延長にして約220m

選別し、整理・保存しています。コンピュータに登録して検索ができるようになった資料は、プライバシーを侵害するおそれのあるものや、法令に定めのあるものなどを除いて、自由に閲覧することができます。

このように公文書館では、過去の歴史資料を収集するだけでなく、同時代の文書の中から後世に伝える記録遺産の収集を行っています。

懐かしのボストン (2)

その家はボストン郊外の鳥獣保護区の森の中にあった。元駐日米大使でハーバード大学名誉教授のエドウィン・O・ライシャワー氏はハル夫人と二人でこの大きな家に住んでいた。我々（琉球大学の保坂廣志教授と共に）が訪ねたのは一九八五年七月

月一日、氏は東京の出版社から出すことになっている自叙伝の校正を終えたばかりであった。部屋には東洋風の調度品が並び、壁には漢字の掛軸がかかっていた。

ライシャワー氏は一九六一年ケネディ大統領の任命で駐日大使になり、ケネディの死後もジョンソン大統領の下で一九六六年まで大使を務めた。その間、日本では池田勇人、佐藤栄作が首相であり、琉球ではかの有名なキヤラウェイ將軍とワトソン將軍が高等弁務官であった。これらの名前をつなげば、インタビュの話題も自ずと決まってくる。復帰問題、ケネディ政権、キヤラウェイ施政、駐日大使館である。大使によれば、キヤラウェイと大使は、



復帰問題等についての国務省と国防省の意見の対立の最前線にいたという。キヤラウェイは日本政府援助を抑えようと、大使は逆に増やそうとして衝突が起こる。軍部は日本政府が返還を要求もしていないのに国務省側が勝手に返還の話を進めていると言って怒り、話し合いにさえも応じようとしなかった。ライシャワーが施政権返還の必要性を身をもって感じたのは一九六一年八月、初めて沖縄を訪問した時であつた。それ以来、大使を辞める六六年まで、大統領はもちろん国務省の要人、太平洋区域司令官など制服組にも返還が日本政府にとつていかに重要かということとを説いてまわつたという。その結果がまず始めに「ケ

ネディ新政策」となつた。

キヤラウェイの任期を六ヶ月間延長することについては、国防省から相談があつたが、六ヶ月くらいならと承諾した。「しかし、それはとんだミスで、イクでした。あの最後の六ヶ月に彼はいろんなことをしてかしたんだから。」いまは亡き大使の笑顔が心に浮かぶ。

館長 宮城悦二郎

公文書館ってどんなところ？⑥

◆ 土地所有申請書 ◆

今回は当館でもっともよく利用されている「土地所有申請書」をご紹介します。それは沖縄戦で荒廃し境界線が分からなくなった土地の所有者を証明するために、隣接地主二人の保証人の連署を添えて土地所有権委員会に提出し、同委員会が調査測量を行い、裏面に図面等を記入して作成された申請書です。紙質や大きさは不揃いで戦前の公文書の裏紙や米軍払い下げ用紙の更紙等（縦17～21cm、横14～21cm）に鉛筆で書かれています。捺印せずに申告しているもの、黄ばんで字が消えかかっているものなど戦後の状況を彷彿させてくれる貴重な資料です。戦災を免れた平良市や石垣市、久米島や粟国島等のものは作成されていませんが、土地の荒廃が激しかった名護市や沖縄市、糸満市等の地域は200冊以上の申請書綴りが残されています。



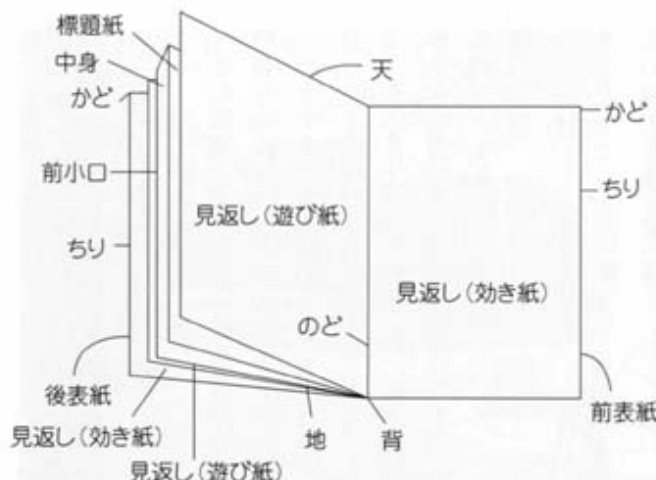
現在、公文書館では劣化の著しい資料は修復をし、マイクロ撮影をして中性紙の保存箱へ箱詰め作業を進めています。資料には埃や塵などが付着しており、職員はマスクや手袋を着用して一枚毎に地番の並べ替えや地名の点検を行っています。これまで約5,500簿冊中、3,781冊の箱詰め作業を終えることができました。現在では使われなくなった小字（あざ）名が多いので、「へえ～こういう地名もあったの？」という驚きと面白い地名に出会う喜びもあります。ちなみに小字で「目耳、多金原、歯毛瑞原、大工廻原、赤犬子原、東空寿」等の地名読めますか？（答えは8ページの編集後記をご覧ください）

資料保存のおはなし(2) 無線とじ本の簡易製本

今回も前号に引き続き、昨年1月に開催した資料保存講演会より、国立国会図書館資料保存課の丸澤勝利先生と大山清二先生にご指導いただいた簡易製本の方法をご紹介します。

この方法は、近年急増している無線とじ本(糸でかがらず、背の折目を切断または切れ込みを入れて接着剤・ホットメルト等で製本されている本)の背崩れや落丁を修復する方法の一つです。

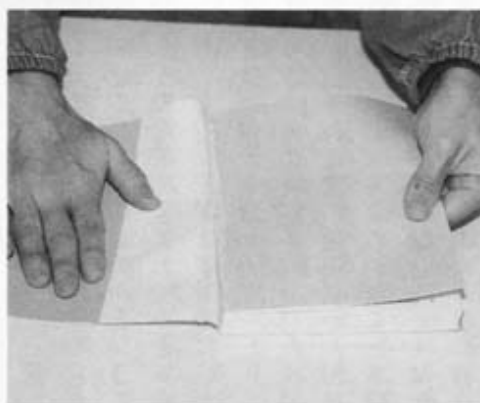
左図 簡易装本の部分名称



作業工程

壊し

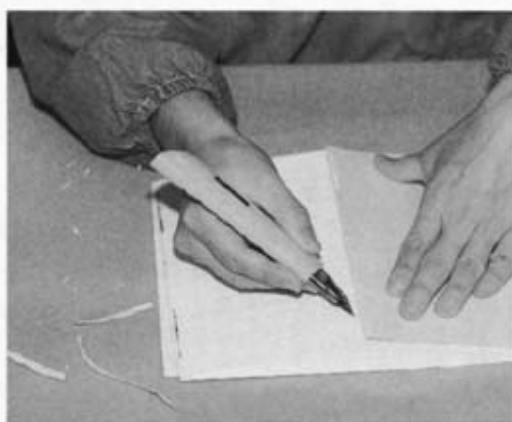
①表紙を破らないように見返しの半分から外す。



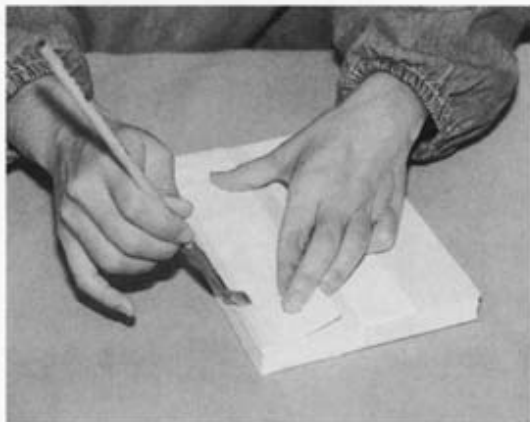
②中身を4〜5枚または1折単位ではがす。



③カッターナイフで背についた接着剤のカスを削り落とす。破れを補修し、紙の折りくせを直す。

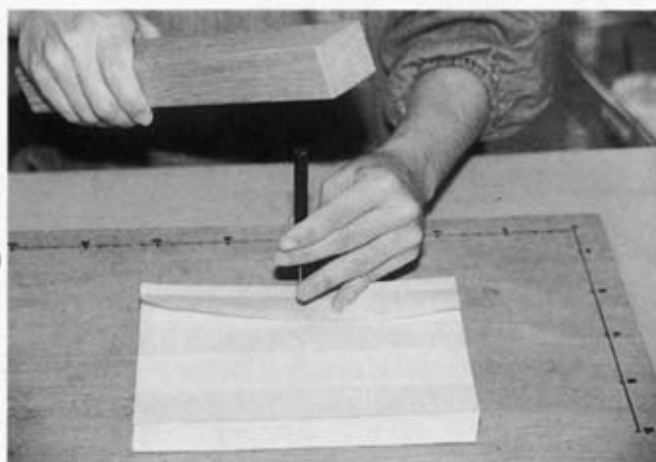


④布テープ(キヤラコ等)または丈夫な紙を天地の長さに切り、見返し(遊び紙)の背に合わせて貼る(糊代7ミリ)。



糸とじ

⑤前小口をよく突きそろえて目打ち台に置き、背から7ミリの位置に目打ちで垂直に孔をあける(資料がずれないように、かつ垂直に孔があくように注意)。孔の数はB6、A5判は3つ、B5判以上は4つあける。



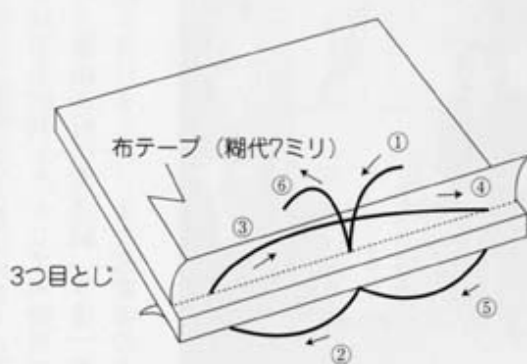
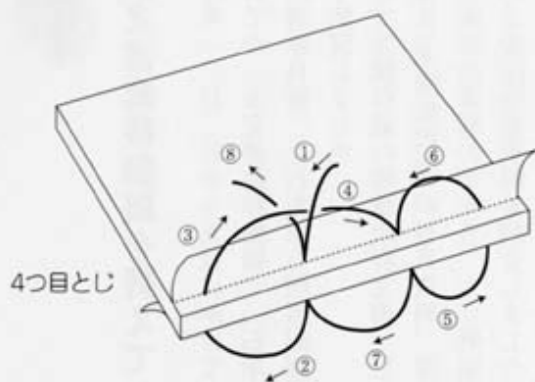
ワンポイントアドバイス

厚手の本は何度か本紙をすらしながら、最後まで垂直に孔をあけよう!

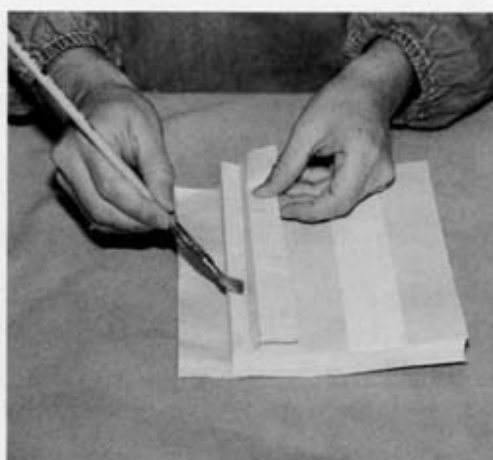
資料がずれないように、かつ垂直に孔があくよう注意してね!



⑥太針で図のようにして糸を通し、最後は素通りした糸を挟んで最初に通した糸ときつく結ぶ



⑧背に糊をつけ中身と表紙を貼って乾くまで押さえ、続いて布テープに糊をつけて表紙と貼り合わせる。



表紙付け
⑦布テープを糸の位置より1〜2ミリ小口側で背の方に折り、さらに小口の方に折り返してその間に糊をつける。

材 料

見返し紙(できれば中性紙)表裏2枚 幅4センチ、長さ天地分の布テープ 2枚糸(綿か麻) 太針、 糊(でんぶん糊等)、カッターナイフ、目打ち、目打ち台、金槌等



これで、糸とじされた丈夫な本のできあがりです。簡易製本の材料は応用が利きますが、大切な本にはできる限りでんぶん糊のように可逆性のある材料をお使いください。

第24回 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)全国大会が閉幕

昨年11月11日から13日の3日間にわたって、全史料協全国大会が那覇市を会場に開催されました。公文書館は開催県事務局をつとめ、県内外から約250名の参加者を数えた大会をぶじに終えることができました。

「地域史料の充実をめざして」という大会テーマのもと、研究会では沖縄県地域史協議会代表仲原弘哲氏が沖縄の地域史の活動を、また公文書館から富永一也氏が海外資料の収集を報告しました。大会とともに開催された研修会では公文書館修復士の大湾ゆかり氏が発表しています。



琉球大学八重山芸能研究会の音頭で盛り上がった懇親会

公文書館移動展を終えて

昨年一〇月二日から九日にかけて、初めての「公文書館移動展」(石垣市立図書館共催)を石垣市立図書館展示室で開催しました。

公文書館収蔵の琉球政府文書、USCAR(米国民政府)の写真資料、岸秋正文庫等の資料の中から、主に戦前戦後の八重山関係資料を紹介しました。八重山群島政府議会の議事録や戦前河村只雄氏が撮影した八重山の島々の写真、米軍統治を批判したとして不許可になった八重山高校の文芸誌「学途」等が話題になりました。また鑑賞者の方々



から資料に関する情報の提供もあり、有意義な展示会でした。

また、同図書館視聴覚室で館長が「公文書館とは」と題して講演し、その後一九六四年の記録映画「孤の果ての島々八重山群島」を上映しました。このような移動展を今後も継続的に開催して欲しいとの要望がありました。移動展は、来る三月には名護市、秋には宮古の平良市で開催する予定です。

利用案内

開館時間 午前九時～午後五時
休館日 月曜日 祝祭日(月曜日に
当たる場合はその翌日)

慰霊の日 年末年始

利用方法

- ・初めて利用なさる方は、「利用証」を作成しましょう。書庫内の資料を閲覧する時には「利用証」が必要です。運転免許証や学生証などの身分証明書をお持ち下さい。
- ・参考資料室の資料は自由に利用することが出来ます。
- ・利用者用端末で検索し、閲覧したい資料が書庫内にある場合は「利用証」の番号を入力して「閲覧申請書」を作成し、受付カウンターまでお申し出下さい。

Multimedia
公文書館ホームページ

ネットOPAからお知らせ

公文書館のホームページ「ねっとOPA(オーパ)」(一九九八年六月一日オープン)は、もうごらんいただけましたか? 公文書館に関する最新の情報を、インターネットを通してお届けしています。

・資料の複写をご希望の方は受付カウンターまでお知らせ下さい。複写料金は一枚二十円です。

・資料検索の方法や公文書館所蔵資料についてお気軽に係員にご相談下さい。

交通のご案内

那覇交通(株)
市内線1番、12番
東陽バス(株)
91番、96番
新川バス停下車



表紙の説明

ハワイ移民の一世の故・比嘉太郎氏が収集した移民研究関係映像資料約二百六十点が、ご子息のアルビン比嘉氏から公文書館に寄贈されました。これらの資料は苦しかった移民の生活を記録し、戦後の沖縄の窮状を見かねて郷土の救援活動に立ち上がった比嘉氏の情熱の証です。表紙の写真は比嘉氏の寄贈アルバムからとったもの。戦後の「郷土・沖縄」の救援のためハワイから送られる山羊。

編集後記

- 特集はいかがでしたか? 公文書館に来てぜひ映像資料を利用して下さい。
- 地名の読み方は順にメミミ、タキンバル、ハモウバル、ジャクジャクバル、アカインコバル、アガリクウジュです。

沖縄県公文書館

〒901-2205
沖縄県南風原町字新川一四八-13
電話(098)888-1387
FAX(098)888-1387

アーカイブス 沖縄県公文書館だより 第9号
平成十一年三月二十二日発行
編集発行